

上	へでも配たつして もらえるというわ けです。	113	切手の話
3	「～右へ曲がっ てはいけない」と いう意味です。	42	記号とこ とば
	「～おいてはい けない」という意 味です。	42	
	三に五を足して二 を引いた数は六に 等しい」というこ と～	42	
下	冬の季節から春の 季節にはいるとい うわけです。	80	春の祭り
	しあわせを家の中 により入れようと いう人人の～	81	
	ひとがたとっし よに流してしまお うというわけです。	83	
	生き物をかわいが るといこと、 もうけられている のです。	85	

考察は、次のような計算の結果をもとにす
めることとした。

$$y = \frac{a}{b} \times 100$$

但し

a = 各調査対象「語い」の意味・用法
ごとの 各学年の用例数

b = 各調査対象「語い」ごとの 各学
年の用例数

とする。

このyの値が1年、2年、3年の間で、どの
ような変化を示しているかによって、この教科
書における調査対象「語い」の意味・用法の広
がりの傾向を見ることにした。

そこで、予想されるyの変化の傾向を次のよ
うに設定した。

学年間のyの値の変化の傾向			
学年 型	1 年	2 年	3 年
I	学年をおって大となる。		
II	学年をおって小となる。		
III	2学年が最小である。		
IV	2学年が最大である。		
V	各学年とも0である。		

これらの結果を、調査対象「語い」ごとに、
意味・用法別に表に整理したところ、次のよう
になった。

(2) 「『語い』の意味の広がり」のあらわれ方

整理の結果から、それぞれの「語い」の意味
が学年をおってどう広がっていくかを考察して
みることにする。

す る